

メタ階層ダイナミクスユニット 質疑応答

『ビーム引き出し領域における負イオンビームレットのRF電場への応答』（永岡賢一）

Q：粒子シミュレーションで答えは出て来ないのか？

A：界面がどう決まるかは粒子シミュレーションでは分からないが、情報を与えてくれるという事で一緒にやっていくことは大事で期待している。

『タングスン表面へのヘリウムイオン入射過程における時間依存密度汎関数理論を用いた量子ダイミクスの探求』（伊藤篤史）

Q：現在の計算は純粋状態を扱ったものと思うが、混合状態を扱った場合は確率の定義・解釈が変わるのではないか？

A：変わると思う。

『Reconstruction of electron velocity distribution function & Gibbs entropy from ECE spectrum in optically thin plasmas』（河森栄一郎）

Q：目的についてもう一度教えて欲しい。

A：turbulence中でのエントロピーの輸送を位相空間上で調べることであり、原理検証の段階である。

Q：生成されたエントロピーがローカルにサーマライズするのが速いか、空間的に伝播してバランスを決めるのか、その辺りは分轄して議論できるものなのか？

A：実空間でなくフーリエ空間で議論しようというのがアイデアになっている。

C：局所的に物事が決まっているのか、大域的に空間次元を介して物事が決まっているのか、局所・非局所・大域性などで整理されたら、より分かりやすくインパクトが有るなと感じられた。

全体に関して

C：最初に上げられた3つのテーマについて、有機的に関わり合うということに囚われるよりは、個々の研究の結果として何か有機的なものが出てくるという考え方の方が良いのではないかという印象を受けた。

C：ユニットの基盤となっている考え方を見える化するような活動も将来的には検討してもらえると良いのではと思う。

A：本を書くというのは設立当初には企図したが時期尚早であった。共著で本を書くというのは頭の片隅に置いておきたいと思う。

C：個人的な考えだが、共著で皆さんの研究を書くのではなく、メタ階層ダイナミクスという考え方を誰かがその人のイメージを書かないとなかなか外部の人には伝わらない気がする。

A：そのような哲学的なことを書くと研究者寿命に関わり兼ねないと個人的には思う。内部で議論して行きたい。